



私（ぼく）たちが思ったこと

～We love 宮城～

私（ぼく）たちは、**THE ローリング・ストーンズ**～俺等はそれを **ROCK** と呼ぶんだぜ！～です。今まで、約半年間にわたって、たくさんの活動、話し合いを重ねてきました。アドボカシーチームでは、宮城県復興計画を見て、いいなと思ったことや、こうしてほしいと思ったところを考えて、まとめました。ぜひわたしたちの意見を、これからのまちづくりに取り入れてください。

① 特にいいなと思ったところ

P6 保健、医療、福祉の確保

物だけつくってもまちの人々が健康で元気じゃなければ、まちづくりする前とかわらないから、まちの人々にも健康で元気でいてほしいから、いいと思いました。

② こうしてほしいと思ったところ

P71 高台移転・職住分離イメージについて

産業エリアの避難ビルや工場が津波をかぶってしまったら工場の産業がとまるし避難ビルの意味がなくなってしまいます。そこで前もって被害にあった時の準備をしたり、政策をととのえておき、工場や避難ビルの、書類の予備をとっておいたり、工場ではたらいでいて津波で仕事をなくした人にお金で支援してください。

P10（8）災害に強い県土・国土づくりの推進について

防災マップのようなところが海のちかくにほしいです。あればすぐに逃げ道にいけるからです。地震の大きさをひなんする所を変えられるようなひなん所のレベル分けもした方がいいです。

・災害情報を伝える仕組みについて

無線は、どこに、どれくらい設置するかを、詳しく知りたいです。

いざというときのために、無線の使い方がわかりやすく書かれたマニュアルがほしいです。

・食べ物について

震災のときは、家に帰れないこともあります。避難した中学校には食べ物も毛布も何もなかったので、家にたくわえるだけじゃなくて、高台の避難所などに場所を決めて、たくさんの人が生活できる食糧や毛布をたくわえるといいと思います。

P10 (9) 未来を担う人材の育成 防災教育の充実について

防災教育に力を入れる学校が増えてきているのはとてもいいことだと思います。しかし、その知識や考えが伝わっていないことがあります。例えば、お年寄りの方は学校で習うことができないし、それは大人にも言えることです。さらに、体が不自由な人は、災害などから命を守る方法をもっと理解していなければなりません。その対策として、まち単位での防災教育を考えました。ひなんルートや逃げる時間と場所、いかに災害がきけんかなど、共有する必要がある情報はたくさんあります。まちのみんなで理解し、協力することで、つながりも深まるし、防災に対する意識が高まると思います。

他にも、祭りなど、人がたくさんあつまるところでは、災害対策ブースをつくって、ひなんルートやひなんじょのマップなどの情報を発信すれば、よりたくさんの方が災害について考えることができると思います。

地上げについて

もとの生活を取り戻すための地上げではなく、未来につながる防災を意識した工事をするべきだと思います。復興計画に冠水したときの内水を外にだす装置をつくるというのがあって、これはとても必要だと思いました。宮城は国内でも、地震が多いところです。宮城県沖とか三陸沖とかいろんな場所で地震が起きるから、これからたくさん起きるかもしれない地震の可能性をしっかりと把握して、震災（災害）に無傷な石巻になってほしいです。また、今回の震災で、あまり被害を受けていなくても、今後の災害などで危険になりそうなところはなおしてほしいと思います。

ほかにも意見が出されました。そして私（ぼく）たちはみんなの意見が取り入れられれば、もっと良いものになってゆくとおもいます。

私（ぼく）たちは、子どもたちから色々な世代の人が交流できるように、また、震災でなくなった子どもの遊び場所を取り戻すために、私（ぼく）たちの「こうしたい」という思いをこめた、みんなが集まる楽しい施設をつくろうと今頑張っています。

なので、これからもお互い声を出し合って、より良い宮城県をつくっていきましょう。私たちにも、意見や考えがあったらください。